

論文要旨

日本医療機器企業の海外戦略についての研究

経営学研究科経営学専攻修士課程

神澤 慎哉

本論文の課題は、日本医療機器企業が海外展開を行うにあたり、既存製品の他に新規製品の開発や販売が海外展開戦略にどのような影響を与えているのかを明らかにすることである。そのため、日本医療機器企業の「テルモ」「オリンパス」「富士フイルム」3社の展開する地域戦略や M&A の状況、研究開発を詳細に分析した。こうした分析によって抽出された3社の共通点と相違点より、日本医療機器企業が海外事業を展開し、海外医療機器企業と競争する上で、売上高のみならず、収益性や研究開発も成長戦略上、重要な意義があることを明らかにした。

先行研究では、海外医療機器企業を中心とした海外展開動向についての調査が多くなっており、特に米国の医療機器産業構造に関する研究や調査が多い。そのため、日本医療機器企業の海外戦略についての研究は極めて少ない上、海外事業展開の要因として、売上高以外の、企業の方針や戦略、経営者の構想などについての研究は少ない。そこで、本論文では、日本医療機器3社が海外展開を行う際の地域戦略や M&A による成長戦略から日本医療機器企業の共通点・相違点を分析し、経営者の考え方や企業方針・ビジョンが海外事業展開にどのように影響しているかを分析することに、先行研究と異なる、本論文の意義を主張できる。

本論文の第1章では、日本及び世界の医療機器市場、新興国の医療機器市場を概況する。第2章～第4章では、テルモ、オリンパス、富士フイルムの3社それぞれの企業概要や売上高、地域別売上高構成比を検討する。また、M&A の状況や実績を比較していく。第5章では、この3社の海外展開戦略の比較分析を行い、共通点と相違点を考察し、日本医療機器企業が海外事業を展開し、海外医療機器企業と競争する上で、売上高のみならず、収益性や研究開発も重要な意義があることを明らかにする。

本論文の分析から、日本医療機器企業が海外医療機器企業と戦うためには、収益性や成長率の伸長を重視し、「集中と選択」の M&A の実行により、先進国や中国を中心とした新興国市場に展開し、開発リスクを考慮した上での製品展開を行い、長期的に価値を生み出せることが必要であることが示唆される。

本論文では、医療機器の研究開発や研究開発費、開発した製品を先進国や新興国で広げていく上での各国の規制については研究できていない。また、医療機器開発に関連して、最大市場である米国における、医療機器エコシステムでの大手医療機器企業とベンチャー企業

との関係性については調査できていない。

今後の研究課題として、本論文の3社に限らず、より多くの日本医療機器企業を対象に、海外展開を行う際の地域戦略やM&Aによる成長戦略を分析し、その共通点と相違点を分析することである。また、大手企業のみならず、中小医療機器企業や異業種からの新規参入企業の成長戦略を明らかにすることも今後の研究課題となる。